

校長室だより

平成22年(2010年)6月8日



校長 箱家 勝規

頼もしく感じたこと

2年生のキャリアチャレンジ(職場体験)、3年生の修学旅行が無事に終わりました。

私は、キャリアチャレンジで頑張っている2年生の様子を少しだけですが見ることができました。

あるレストランでは、お昼にたくさん来られるお客さんのために、前もってコップやおしぼりの準備をしていました。店長さんからは、「よく働いてくれるので、バイトできてほしいくらいです」と言っていました。

幼稚園で先生のお手伝いをしていていた男子生徒は、園児と一緒に泥の団子作りをしていました。泣いている園児を見つけると「どうしたの?」と声をかけている姿が印象的でした。園児に対して同じ目線になって、共感的なかわりをしているところに何よりも感心しました。

「『中学生の見方が変わりました』と事業所の方からおほめの言葉をいただいた」と担当教員から聞かせてもらいました。

どの事業所の方からも「よく頑張ってくれています」の声を聞かせてもらい、社会の一員として立派に歩み出せている2年生をあらためて頼もしく感じました。

4日(木)から2泊3日で、長崎への修学旅行に3年生を引率しました。

初日は、長崎市内の班別自主研修、2日目の午前中は班別の碑めぐりによる平和学習、午後は個人選択の体験学習、3日目はクラス別体験学習でした。私もその中には行って体験をしましたが、とても充実した、そして思い出に残るよい3日間を過ごせたと思っています。

修学旅行中、最高学年として感心し、頼もしく思うことがたくさんありましたので紹介をします。

説明される人の話をしっかりと聴いていたこと。

碑めぐりは、被爆を経験された地元のボランティアの方が説明をしてくださいました。約2時間は、歩き疲れたと思いましたが、どの班の生徒も無駄なおしゃべりをすることなくメモをとりながら聴いていました。終了後、ボランティアの方から「素直なよい中学生ですね」とおほめの言葉をいただきました。

京都駅での解散式では、一般の方がたくさんおられ、騒音があつたにもかかわらず、全員が前を向いて集中して話を聴く姿勢ができていました。

地元の大人の方とのふれあいから、認めてもらえる経験ができたこと。

この3日間は、生徒同士だけでなく地元の大人の人とふれあう機会がたくさんありました。個人選択の体験学習、クラス別体験学習の時の指導者の方々だけでなく、ホテルの従業員の方々からもほめていただいたり、認めてもらえる場面が多々あったことは、3年生が社会人として成長している証しでもあると思います。

2年生、3年生とも学校外で活躍している姿を見て、あらためて中学生として頼もしく感じました。

